

平成 2 0 年 3 月 3 日 招 集

伊 万 里 市 議 会 第 1 回 定 例 会

市 長 提 案 理 由 説 明

(はじめに)

平成20年第1回定例会の開会にあたり、市政運営について所信の一端を申し述べますとともに、今議会に提案いたしました平成20年度当初予算並びにその他の議案について概要をご説明申し上げます。

私は、「さわやか市政」の政治信条のもと、市長として市民の皆様から負託を受け、早くも、2期目の折り返し点に差しかかりました。

これまでの6年間、常に、市民と同じ目線に立った考え方と前例にとられない新たな発想による市民本位、成果重視の自治体経営を心がけてきたところであり、特に、今期に臨むにあたっては、「元気な伊万里市づくり」をキーワードとした政策実行計画（マニフェスト）を定め、未来志向型の伊万里市づくりという大きな視点と、市民がそれぞれの地域で暮らしやすさを実感できるきめ細かな配慮のある伊万里市づくりの2つの軸のもと、各種事業を推進してきたところであります。

こうしたなか、将来、大輪の花とするために蒔いた種が早くも芽吹き始めており、特に、産業面においては、I C 関連企業の2年連続となる誘致を契機に、国内の研究施設を集約した次世代ウェーハ開発拠点施設の整備や新たな生産能力増強のための大規模な投資計画が報じられるなど、まさに、この伊万里市において世界随一の生産拠点づくりが着々と進められ、今後の市勢が大きく飛躍するものと期待を膨らませているところであります。

また、市勢の浮揚に必要な不可欠な社会資本である第4工業用水道や待望久しい西九州自動車道の市内での着工をはじめ、市民の期待が高い新統合病院や長年の課題であった広域ごみ処理施設の整備など、市民の安心と快適な生活を支える大型プロジェクトが、今まさに、私たちの目の前にその姿を現そうとしているところであり、平成20年度は、本市にとって、未来への確かな一歩を踏み出す年となるものと確信いたしております。

(重点プロジェクトへの対応)

昨年、総合計画の策定に向け実施した市民アンケートにおいて、市政全般に及ぶ施策メニューの中から、市民が最も重要であるとする施策として、「安心して働くことができるまち」が選ばれており、このことから、選択と集中の理念のもと、雇用機会の拡大や市民生活の向上を目指す施策の中から、重点プロジェクトの位置付けを行い、その早期実現に向け、積極的に取り組んでまいります。

なかでも、第4工業用水道につきましては、3年間という限られた工期の中で、二重鋼矢板式により海を閉め切り貯水施設を整備するという国内初の工法により取り組んでおり、塩分溶出対策など、諸課題への対応を行いながら、来年7月の供用開始に向け、迅速かつ確実な事業の推進を図ります。

市民待望の高度・救急医療等に対応できる新統合病院につきましては、建設場所や費用負担等の見通しがつき実現へ大きく踏み出したところであり、次の段階である基本設計や用地取得に取り組むなど、有田町との緊密な連携を図り、一日も早い開院を目指してまいります。

また、広域ごみ処理施設につきましては、松浦町の皆様への住民説明会を開催し、複数の候補地の検討をお願いしたところであり、まずは、町民の皆様のご理解とご協力を得たうえで、新たな施設整備に向け取り組んでまいります。

このほか、アジアに向けた物流拠点としての伊万里港の機能を高めるマイナス13メートル岸壁、洪水の防止と飲料水を確保するための井手口川ダムの整備をはじめ、近隣の都市との時間的距離を短縮し交流を促進するための幹線道路である国道202号、国道204号、国道498号大坪バイパス、県道伊万里山内線、県道黒川松島線バイパスの整備など、本市経済の浮揚と市民生活の向上に大きな効果をもたらす大型事業の早期完成に向け、国や佐賀県に対する働きかけを、なお一層強めてまいります。

（自治体を取り巻く課題）

さて、わが国は、世界で初めてとなる本格的な人口減少社会に突入しており、このことは、労働力人口の減少や社会保障費の増大など多大な

影響が予測されるとともに、特に、少子高齢化の進行が著しい地方都市においては限界集落の問題など、新たな課題もクローズアップされてきております。

また、近年における国内景気は、回復の基調を示してきたものの、昨年後半からの、金融市場の変動や原油価格の高騰により国内外の経済は大きな打撃を受けており、市民の日常生活や農業、工業などにおける生産活動においても多大な影響が懸念されるところであります。

一方、新しい地方財政の再生制度として、「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」が施行された背景にあるように、多くの地方自治体においては、三位一体改革による地方交付税の削減等の影響により、大変厳しい財政状況にあり、今後はルール化された手法のもとで、計画的で透明性の高い行政経営の推進とともに、地方財政の早期健全化を図るための取り組みが求められております。

こうしたことから、平成16年度から独自に取り組んでいる財政健全化計画を着実に推進するとともに、行政評価システムと連携した成果主義による事業への予算配分をはじめ、提案型公共サービス民営化制度の継続的な実施などによる行政のスリム化はもとより、市民との協働を重視した地域経営の取り組みを行う時期に来ていることを、強く認識しているところであります。

(5つの元気なまちづくり)

このような本市を取り巻く課題を踏まえ、マニフェストに掲げた「5つの元気なまちづくり」の基本方針に基づき取り組む主要な施策についてご説明申し上げます。

一つ目は、「歴史や伝統文化、特産品など、地域の宝を生かした元気なまち」です。

市外から訪れる方に対し、「焼き物の里・伊万里」のイメージを強くアピールするため、幹線道路の随所に伊万里焼のモニュメントを設置する「伊万里焼ロードギャラリー」を実施するとともに、もてなしの心で伊万里の魅力を伝える観光ボランティアガイドの養成に引き続き取り組みます。

また、伊万里焼や伊万里梨などのブランドを世界へ送り出すためのアジアネットワーク事業につきましては、販路の拡大と確立によるビジネススペースへの移行を図るため、大連市内での交流拠点の設置に向けた調査に取り組みます。

地域の特色を活かした生涯学習活動や住民のコミュニティ活動の拠点である公民館につきましては、新たに大川公民館の改築に向けた実施設計に取り組みます。

二つ目は、「地域医療の充実と食のまちづくりによる日本一健康長寿の

元気なまち」です。

社会を担う若い生命を守り育てるとともに、保護者の子育てにおける安心の確保を図るため、平成15年5月以来休診している市民病院小児科の再開を目指します。

食品業界における不正表示の問題等から、食の安全に対する関心が高まりを見せる中、食のまちづくりにつきましては、家庭や学校、地域等における本市ならではの食育を推進するため、「食育推進基本計画」を策定するとともに、フォーラムの開催等により、食に関する市民意識の高揚を図ってまいります。

また、市民の心身の健康づくりへの関心を高め、自らが楽しく学び実践する場として、「さわやかいまり健康づくり大学」を開催するとともに、メタボリックシンドロームに着目した健康診査など、生活習慣病の予防や各種の健康づくり事業に取り組み、日本一の健康長寿のまちづくりを推進します。

三つ目は、「企業誘致と地場産業の育成による雇用の拡大といきいきと働ける元気なまち」です。

相次ぐ工場等の増設に伴い、伊万里団地並びに七ツ島工業団地の分譲は大きく進んでいる状況にあることから、団地の完売に向け、企業への誘致活動のさらなる強化に努めるとともに、将来における企業誘致の受

け皿として、多様化する企業の立地動向に対応した工場適地の調査・研究に取り組んでまいります。

また、誘致企業等においては、市外からの通勤者も多く、一方では、今後の大規模な雇用拡大も予定されていることから、このことを定住促進の好機と捉え、新たに設置した企業向けの相談窓口による積極的な転入支援に努めます。

四つ目に、「教育・福祉の充実と子育て支援による安心して子供を産み育てる元気なまち」です。

少子化傾向が依然として継続し、核家族化や地域社会とのかかわりあいの希薄化が進む中、安心と喜びをもって子どもを産み育てることができる環境づくりが重要となっています。

このため、本年4月に市民センターへ移転する子育て支援センターにつきましては、子育てに関する情報交換や相談の機会の拡充を図るほか、専用駐車場を整備し、子育て支援の活動拠点としてさらなる利便性の向上に努めます。

また、妊婦が安心して出産を迎え、子どもが健やかに成長することを目的として、妊婦健康診査や子どもの医療費に対する助成制度の充実を図るほか、小学生を対象とした放課後児童対策事業の実施個所を拡大するなど、安心して子どもを産み育てることができるまちづくりに取り組

みます。

五つ目は、「活力ある農林水産業の育成と商業を中心とする中心市街地
が輝く元気なまち」です。

本市の基幹産業である農業につきましては、収益性の高い魅力ある農
業の確立を図るため、国の農政改革に対応しつつ、中山間地である本市
の特色を活かした生産基盤の整備を進めるとともに、認定農業者や集落
営農組織などの担い手の育成強化を促進します。

また、安全でおいしい農産物を市民に提供する地産地消の推進をはじ
め、豊かな自然環境や地域資源を有する農村の特性を活用したグリーン
ツーリズム推進事業に取り組むなど、農産物の消費拡大や都市住民の交
流人口の増加を図り、農業と農村の活性化に努めてまいります。

一方、市街地におきましては、商店街の活性化に向けた指針づくりや
街づくり活動への支援を行い、賑わいの創出を促進します。

(元気なまちづくりの実現のために)

以上、5つの元気づくり政策についてご説明申し上げましたが、地域
間競争が一層の激しさを増す今日において、本市が未来に向け着実な歩
みを進めていくために必要なものは、市民の元気であり、その元気こそ
が市政を運営するための原動力にほかなりません。

こうしたことから、私は、市民の創意と責任による自立的かつ主体的な新しいまちづくりとして、「地域の元気推進事業」に取り組んでいるところであり、平成20年度は、他地区に先駆けて取り組まれる波多津町と二里町への支援を行うとともに、全市的な拡大を図るなど、元気なまちづくりをさらに推進してまいります。

また、国において予定されている「ふるさと納税」制度の創設を絶好の機会と捉え、市民をはじめ、多くの伊万里ファンの方々に対し、本市固有の地域資源や特色を活かした元気プロジェクトへの支援をお願いするため、ふるさと伊万里応援のための寄附制度を創設します。

一方、まちづくりにつきましては、中長期的な展望に立った基本的指針に基づき進めていくべきものであるため、現在、平成21年度から10年間における本市の行政運営の指針となる「第5次伊万里市総合計画」を策定しているところであります。

人口減少社会と厳しい財政状況を前提とした混沌とした時代であるがゆえに、高い実効性を備えたものとして、また、「元気」に象徴される将来の夢と希望を織り込んだものとして、多くの市民の皆様への参画を図りながら計画を策定いたします。

私は、こうした基本的な方針に基づき、市政を運営していくにあたり、まずは、市民の皆様に対し、「市民力」と「企業力」、そして、さらに広がりをもつ「地域力」を期待しているところであり、これらの3つの力

に「職員力」を加えることにより、磐石の態勢をとりながら、まちづくりの究極の目標である「住みたいまち伊万里・行きたいまち伊万里」の実現に向け、山積する課題に強い信念を持って果敢に挑戦してまいる所存であります。

(予算編成方針と当初予算の主な内容)

元気なまちづくりの実現に向けた私の基本的な考え方についてご説明を申し上げましたが、本市では、誘致企業の好調な業績等に伴い、法人市民税の今後の伸びが期待されるものの、一方では、全国的な傾向として、地方交付税の原資となる国税や地方税の伸びの鈍化、加えて、社会保障費の増大や公債費比率の高い状況での推移が見込まれ、厳しい財政運営を強いられることが予測されるところであります。

このため、平成20年度予算編成にあたっては、これまで申し述べた工業用水道開発や新統合病院など、将来において快適な市民生活を支えるためのインフラ整備に集中的な投資を行いつつ、限られた財源の中で、健康福祉分野など市民福祉の向上に配慮した、いくなれば、気配り予算の特色付けを行うとともに、厳しい財政状況を踏まえた上で、堅実さの中にも一步前進した予算の編成に努めました。

その結果、平成20年度一般会計当初予算の総額は、193億6,800万円といたしております。以下、歳出の款ごとに取り組む事

業の概要をご説明いたします。

まず、総務費につきましては、情報発信のためのアドバイザーを招へいし、本市の魅力ある情報を効果的に発信するノウハウを構築するとともに、あらゆる機会と媒体を活用した広報活動に努めます。

また、昨年度から取り組んでいる定住促進につきましては、市外の団塊の世代等への働きかけを強化するとともに、住宅等を取得した転入者に対し定住奨励金を交付します。

まちづくり市民団体等の活動拠点として、新たに「市民活動支援センター」を整備・開設し、情報交換や交流の場としての活用を促進するほか、地域の身近な課題の解決を目的とする事業や調査・研究など、楽しいゆめのあるまちづくりに向けた自主的な市民活動を支援します。

民生費では、これまで入院費のみを助成対象としてきた「こども医療費助成事業」について、新たに歯科通院費を対象に加えることにより、制度の更なる充実を図り、乳幼児の保健の向上と健やかな成長の促進に努めます。

留守家庭児童クラブにつきましては、新たに牧島小学校と伊万里養護学校の2校で開設し、あわせて14校において運営するとともに、多様な保育ニーズへの対応として、保育所における一時保育や障害児保育、延長保育に継続して取り組むなど、保護者の子育てと仕事の両立支援に努めるほか、市内では初めてとなる幼稚園と保育所の機能を併せ持つ「認

定こども園」の円滑な運営を促進します。

また、すべての高齢者が生きがいを持ち、健やかで安心して暮らすことができる長寿社会を実現するため、シルバー人材センターや老人クラブの活動を支援するとともに、長寿の節目に「つる・かめ敬老祝商品券」を贈呈するほか、平成21年度を初年度とする「第5次老人保健福祉計画」の策定に取り組みます。

心身に障害がある方の自立支援につきましては、障害者計画に基づき、移動やコミュニケーション、日中活動などの地域生活の支援に取り組むほか、「障害者生活支援センター」を広域電算センター跡へ移転し各種相談業務等の充実を図るなど、すべての市民が住み慣れた家庭や地域で安心して暮らすことができる地域づくりを進めます。

衛生費では、妊娠中の母子の適切な健康管理を行うため、妊婦健康診査の公費負担回数をこれまでの2回から5回へと拡充するほか、乳児の健全な育成を支援するため、新たに生後4か月までの乳児がいるすべての家庭への訪問事業に取り組み、育児等に関する不安や悩みの解消と子育てに関する情報提供等に努めます。

また、地球環境にやさしい持続可能な循環型社会を構築するため、資源ごみリサイクルの取り組みや浄化槽の設置を引き続き支援するほか、廃棄物の適正な処理や排出の抑制並びに快適な生活環境の保全を図るための一般廃棄物処理基本計画を策定します。

農林水産業費では、生産コストの上昇や農畜産物価格の低迷、深刻化する後継者不足など、厳しい経営環境のなか、生産性と収益性の向上を図るため、農地や農道、水路などの基盤整備をはじめ、園芸施設の整備や作業の効率化のための機械導入に対する支援を行うほか、就農希望者に対する技術取得の場を提供するなど、農業後継者の育成と確保に努めます。

また、伊万里ブランドの確立に向けた取り組みとして、伊万里牛につきましては、大消費地におけるPRなどの販売促進に対する支援を行うとともに、肥育素牛の生産拡大を図るほか、伊万里梨につきましては、平成22年度に本市において開催される「全国ナシ研究大会」を契機として、生産性が低下した老木の改植等に対する支援を行うなど、伊万里梨の再構築を促進します。

林業につきましては、植林やその後の管理など森林施業に不可欠な林道の整備や、間伐作業への支援を行うほか、水産業では、クルマエビ養殖場の改良工事を行い、生産性と品質の向上により経営の安定化を図ります。

農業・農村の活性化の面で大きな役割を果たしているグリーンツーリズム推進事業につきましては、「畑の中のレストラン」などの取り組みが、地域に根付いた村おこしのイベントとして定着を見せていることから、事業の受け皿となるグリーンツーリズム・インストラクターの育成をは

じめ、実施内容の充実を図り、情報発信の強化、交流人口の拡大に努めてまいります。

商工費では、市街地の賑わいづくりとして、商店街が開催する各種イベントに対して引き続き支援を行うほか、菓子の発祥地である伊万里の菓子文化を全国に発信するため、兵庫県姫路市において開催される国内最大のお菓子の祭典である「全国菓子大博覧会」への出展に対して支援を行うとともに、本市ブランドの代名詞である窯業の持続的発展を図るため、後継者の育成に対する支援や情報発信のためのイベントを開催します。

また、企業の事業拡張に伴う設備投資を支援する奨励金の交付や、業種等を絞り込んだ戦略的な企業への立地勧奨を展開し、安定的な市民生活の向上に寄与する雇用の場の拡大と工業の振興を図るほか、市内金融機関へ融資の原資を預託し中小企業の経営の安定化に努めてまいります。

公共交通体系の整備につきましては、松浦鉄道の車両更新等を支援するとともに、市街地における身近な移動手段としての「いまりんバス」を運行するほか、公共交通の空白地帯における移動制約者の移動手段の確保について、新たなシステムの構築に向けた検討を引き続き進めてまいります。

また、伊万里の豊かな農水産物など自然の恵みに感謝し収穫を祝う市民総参加の「いまり秋祭り」や、女性が主役となり伊万里の夏の風物詩

として定着している「どっちゃん祭り」、さらには、「花火大会」、「つつじ祭り」など、四季折々のイベントの開催を通じて誘客の増加を図ります。

土木費では、道路整備に対する高度化、多様化するニーズに的確に対応するため、都市計画道路では、児童の通学路や国・県道と連結する路線を重点的に整備するとともに、市民の生活道路である市道では、改良や歩道の整備、カーブミラーの設置などの充実を図り、歩行者や運転者の安全・安心の確保とともに、さらなる利便性と快適性の向上を図ります。

また、河川では、煤屋川や永山川の改修を行い、洪水対策と地域の特性を活かした潤いのある水辺環境の創出に努めるほか、憩いの場として多くの市民の皆様にご利用されている「伊万里ファミリーパーク」につきましては、子どもから高齢者などあらゆる世代の方々に安心して楽しんでいただけるよう、自然豊かな地形を活用した整備を引き続き進めてまいります。

住宅環境の整備につきましては、市営住宅において外壁の改修や施設のバリアフリー化を進めるほか、公共建築物の年次的な耐震診断を実施するとともに、新たに一般住宅の耐震診断への支援を行います。

消防費では、各種の災害などから市民の生命や財産を守り、安全・安心な市民生活を確保するため、消防職員の訓練充実などによる消防技術の向上に努めるとともに、市町の消防防災体制の充実強化を図る消防の広域化に向けた取り組みを進めるほか、消防通信のデジタル化による高度

化を目的とする県内7消防本部の無線の一本化に関する調査を実施します。

また、消防団に配置している小型動力ポンプ付積載車の更新など、資機材の整備充実を図るほか、老朽化が著しい積載車格納庫の改築に対する支援を行うなど、消防体制の強化に努めます。

教育費では、本市の未来を担う子どもたちの健全な育成を図る環境整備として、国見中学校の改築に向けた実施設計等に取り組むとともに、年次的に学校の耐震診断を実施します。

また、家庭教育力の向上を図るための指導資料や親と子のこころをつなぐ「いのちの教育実践事例集」の作成を進めるほか、地域の支援を受けてスポーツや文化活動などに取り組む「放課後子ども教室」を5か所の公民館において実施します。

さらに、本市と有田町を主会場として開催される県民体育大会につきましても、選手の競技力の向上と円滑な大会運営に努めるとともに、「美しい日本の歩きたくなるみち500選」に選ばれた伊万里の美しい自然をめぐる「歩きたくなる街伊万里ウオーク2008」などの開催を通して、健康づくりや体力づくり意識の高揚を促進します。

災害復旧費につきましては、平成18年の記録的な豪雨により市内各地で被災した土木施設や農地、農業用施設等の復旧が、南波多町府招地内の地滑り復旧に伴う市道舗装工事を除き、すべて完了したところであり、平成20年度は、急傾斜地崩壊対策事業等に要する経費を計上いた

しております。

次に、特別会計について予算の主な内容をご説明申し上げます。

国民健康保険特別会計につきましては、予算の総額を64億3,767万1千円とし、保険給付費、老人保健拠出金および後期高齢者支援金等を計上いたしております。

介護保険特別会計につきましては、予算の総額を47億9,995万7千円とし、閉じこもり防止や認知症の予防等を目的とする「高齢者ふれあい・生きがい発掘事業」を新たにスタートするほか、第4期介護保険事業計画の策定に要する経費および保険給付費等を計上いたしております。

立花台地開発事業特別会計につきましては、予算の総額を5,770万2千円とし、街路樹等の管理委託料および職員給与等を計上いたしております。

公共下水道事業特別会計につきましては、予算の総額を21億7,999万円とし、浄化センター水処理施設更新工事に要する経費および地方債償還金等を計上いたしております。

農業集落排水事業特別会計につきましては、予算の総額を1億2,991万3千円とし、処理場等の維持管理費および地方債償還金等を計上いたしております。

市営駐車場特別会計につきましては、予算の総額を1,470万8千円

とし、管理運営に要する経費等を計上いたしております。

老人保健特別会計につきましては、予算の総額を8億1,904万6千円とし、医療給付費等を計上いたしております。

新たに設ける後期高齢者医療特別会計につきましては、予算の総額を11億2,041万3千円とし、後期高齢者医療広域連合納付金等を計上いたしております。

次に、企業会計についてご説明申し上げます。

水道事業特別会計につきましては、予算の総額を33億8,962万5千円とし、第9次拡張事業において簡易水道を統合するための配水管新設工事および新たに建設する浄水場の用地取得に要する経費並びに平成20年度が最終年度となる「伊万里市鉛製給水管解消基本計画」に基づく、鉛製給水管敷設替事業や波多津東部地区までの給水区域の拡張を図る波多津簡易水道再編推進事業に要する経費等を計上いたしております。

工業用水道事業特別会計につきましては、予算の総額を94億7,028万7千円とし、営業費用、企業債償還金および出資金のほか、平成21年6月末の完成に向けた第4工業用水道建設に伴う各種施設の工事に要する経費等を計上いたしております。

国民健康保険病院事業特別会計につきましては、予算の総額を12億9,869万1千円とし、医業費用および企業債償還金等を計上いたしております。